

日本禁煙学会の対外活動記録 (2018年11月～12月)

- 11月24日 日本禁煙学会HPに、第26回認定試験(11/11香川)合格者を掲載しました。
- 12月5日 日本禁煙学会HPに、2018年 第8回禁煙CMコンテストの結果発表と総評を掲載致しました。
- 12月8日 セブンイレブン古屋一樹社長に感謝状を贈りました。
- 12月8日 「医学と薬学(自然科学社)12月号特集 タバコの害を考える」が出版されました。
- 12月11日 全面禁煙の「受動喫煙防止条例」の早期制定に関する要望書を都道府県知事、都道府県議会議員、政令市市長、政令市議会議員宛に送付いたしました。
- 12月21日 全国の大学学長様、喫煙対策委員長様にあて、「新入生へ入学時早期の1～2時間を「禁煙教育」の必修授業としてください」のお願いをしました。
- 12月21日 「受動喫煙を防止するため、喫煙所の取扱いについて」の要望書を厚生労働省に提出しました。
- 12月22日 受動喫煙防止法と都条例のまとめ(5年後には見直し、加熱式タバコも同様に禁止されるでしょう)。

〈日本禁煙学会誌優秀論文賞(2018年)〉

昨年の第12巻5号から今年の第13巻3号までに掲載された原著論文から、優秀論文を編集委員会で選定しました。第12回日本禁煙学会学術総会で発表し、賞状と記念盾をお贈りしました。

栗岡成人氏(NPO法人 京都禁煙推進研究会)

第13巻第1号

「京都府下の高齢者介護施設のタバコに関する実態調査」

http://www.jstc.or.jp/uploads/uploads/files/gakkaisi_180226_04%281%29.pdf

〈繁田正子賞(2018年)〉

多年にわたり喫煙防止教育や後進の育成に情熱を捧げられた故繁田正子先生の遺徳を偲び、次世代を担う若者によるタバココントロール研究・調査および活動を奨励する目的で、2017年5月に日本禁煙学会「繁田正子賞」(Shigeta Masako Young Investigator Award; SMYIA)が設立されました。

高松での第12回学術総会の繁田正子賞セッションにおいて6演題が発表されました。審査の結果、最優秀賞、優秀賞に以下の3演題が選ばれ、会員懇親会の場で、理事長より表彰状および賞金が手渡されました。

◎最優秀賞

五十嵐(武内)寛子氏(日本歯科大学生命歯学部 歯周病学講座)

「禁煙がヒト歯根膜由来血管内皮細胞に与える効果について」

◎優秀賞

福本友絵氏(岡山県健康づくり財団附属病院)

「岡山県における学校での受動喫煙対策に関する実態調査報告」

小西彩絵氏(京都女子大学 家政学部 食物栄養学科)

「ホテルにおけるタバコ煙濃度の評価」

〈編集後記〉

山本蒔子委員長、吉井千春副委員長のもと、2018年の第13巻は皆様からの玉稿により第1号～第5号をお届けすることができました。内容は原著が6篇、症例報告1篇、調査報告2篇、短報1篇、報告2篇、特別寄稿1篇で、巻頭言を第1号から3号まで、活動記録を毎号掲載しました。

第13巻の巻頭言は、第1号で第12回日本禁煙学会実行委員長の森田純二理事が「草の根 projectが無煙社会を創る“四国が動く”“日本が動く”」をテーマに選んだ心意気を示され、多くの学会員がその熱情に打たれて11月、高松に集結しました。第2号では、川俣幹雄理事が加熱式タバコが我が国に速やかに浸透してしまった過程を、フィリップ・モリス社のなりふり構わぬ言説を丹念に拾いながら提示されました。第3号巻頭言は、昨年の滋賀県男性平均寿命日本一と男性喫煙率最低値との報道を受けて滋賀県禁煙推進仲間を代表して筆者が担当しました。第4号では、岡本光樹理事の巻頭言としての大作を特別寄稿として掲載しました。東京都受動喫煙防止条例と健康増進法改正成立の過程と周辺について、2002年に健康増進法制定の段階から現在までを、近年については政治的背景に言及しながら微に入り細を穿つ詳しさを纏められました。なお今後、巻頭言については毎号ではなく、必要に応じて掲載する方針です。

第13巻掲載の6篇の原著論文中2篇が加熱式タバコを主題としています。時期的にも加熱式タバコに関する最新の知見を盛り込んだ総説が望まれるところです。

禁煙治療では、ニコチン製剤で症状が増悪するとの報告がある重症筋無力症へのバレニクリン投与で一過性の眼瞼下垂増悪を認めたものの最終的に禁煙治療に成功した事例が第1号で伊藤 恒会員から報告されました。

禁煙教育では、10代～20代前半の若者への「認知とストレス」に関する1回の心理教育で、タバコの害や防煙に関する直接的な内容を含まなくとも喫煙に対する意識に改善が認められたとの第4号短報(藤原直子会員)は今後の防煙授業の在り方に新たな視点を与えるものと思います。

第2号掲載の調査報告「受動喫煙症外来設置医療機関の現状について」(倉田文秋会員)は、調査時点で81施設の受動喫煙症外来で受診患者も少なく、実働外来も少ないことを明らかにし、「受動喫煙症外来のための手順書作成」を提案しました。本論文掲載からほぼ6か月後の2018年12月26日時点で受動喫煙症外来数は98施設に増えました。第4号掲載の「都道府県看護協会のタバコ対策、およびタバコ対策や禁煙支援の講習機会に関する調査」(瀬在 泉会員)では、日本看護協会のタバコ対策に対する関心の強弱は都道府県により差異があることを明らかにし、看護職の患者への禁煙支援についての教育支援の重要性を強調しています。

作田理事長には、第2号で「第17回世界禁煙会議(WCTC)に出席して」を、第5号で「タバコ規制条約(WHOタバコ規制枠組条約:FCTC)COP8(第8回締約国会議)報告」と題して、それぞれ、南アフリカ・ケープタウン(2018年3月)、スイス・ジュネーブ(2018年10月)で開催された国際会議参加報告をご寄稿賜りました。世界の禁煙推進状況における日本の立ち位置の最新情報が理解できます。

日本禁煙学会雑誌は、禁煙に関する研究だけではなく、会員の禁煙活動に役に立つ正しい情報をお伝えしていきます。また来年も、今年に増してより良い雑誌を作っていきたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

最後になりましたが、玉稿を賜りました著者各位、査読を快く引き受けて下さいました会員の皆様方に厚く御礼を申し上げます。時節柄御身大切にお過ごし下さいますようお願いしております。

(編集委員 細川洋平)

〈第13巻査読者一覧〉

日本禁煙学会雑誌第13巻の発行に際しまして、下記の方々に論文査読のご協力を賜りました。ここにお名前を挙げさせていただき、厚く御礼申し上げます。

お名前(五十音順、敬称略)

相澤政明、飯田真美、大坪陽子、加濃正人、川根博司、久保田聰美、北田雅子、郷間 巖、鈴木幸男、高橋正行、高畑裕美、谷口千枝、津谷隆史、富永敦子、橋本洋一郎、松崎道幸、松浪容子、矢野直子、山代 寛、吉井千春

日本禁煙学会雑誌はウェブ上で閲覧・投稿ができます。
最新号やバックナンバー、投稿規程などは日本禁煙学会ホームページ <http://www.jstc.or.jp/> をご覧下さい。

日本禁煙学会雑誌編集委員会

●理事長	作田 学	
●編集委員長	山本蒔子	
●副編集委員長	吉井千春	
●編集委員	稲垣幸司	川根博司
	川俣幹雄	佐藤 功
	鈴木幸男	高橋正行
	谷口千枝	野上浩志
	蓮沼 剛	細川洋平
	山岡雅顕	(五十音順)

日本禁煙学会雑誌

(禁煙会誌)

ISSN 1882-6806

第13巻第5号 2018年12月31日

発行 一般社団法人 日本禁煙学会

〒162-0063

東京都新宿区市谷薬王寺町 30-5-201 日本禁煙学会事務局内

電話：03-5360-8233

ファックス：03-5360-6736

メールアドレス：desk@nosmoke55.jp

ホームページ：http://www.jstc.or.jp/

制作 株式会社クバプロ